

令和6年度 特支研養護教諭部会 夏季研修会

前年度から引き続き、研究テーマ「特別支援学校における養護教諭の職務の専門性について～支え合える組織づくりを目指して～」に沿って、特別支援学校間でもなかなか把握しきれない、異なる障害種の実態や課題を把握し、互いの思いを共有することを目的として、それぞれ違う障害種の特別支援学校の学校見学を行いました。今年度はろう特別支援学校（聴覚障害教育）、本郷特別支援学校（知的障害教育）、日野中央高等特別支援学校（軽度知的障害教育）の3校を見学しました。

日にち・場所： 7月 9日（火） ろう特別支援学校
8月 22日（木） 本郷特別支援学校
9月 11日（水） 日野中央高等特別支援学校



ろう特別支援学校（聴覚障害教育）

ろう特別支援学校は小学部、中学部、高等部の他に、幼稚部があります。廊下や教室に非常灯があり、発災時や避難訓練の際に非常ベルの代わりに点灯します。聴力測定室というものがあり、在校生や通級の子の細かい聞こえの検査や、補聴器の調整などを行っていると言能担当の先生よりご説明いただきました。生後6か月の子も検査することがあり、人形やモニター等を用いて反応を見るなど、工夫して検査されているそうです。

本郷特別支援学校（知的障害教育）

本郷特別支援学校の見学では、教室のドアの鍵が子どもには開けづらい仕組みになっている、支援がしやすいようにトイレにシャワーや長便座が設けられているなど、障害種に合わせた仕組みにみなさん興味津々でした。保健室には歯科診療用の椅子があり、歯科検診や耳鼻科検診に活用しているそうです。プレイスペースや芝生のグラウンドなど、他の学校にはあまりない施設も見学させていただきました。

日野中央高等特別支援学校（軽度知的障害教育）

日野中央高等特別支援学校では、企業就労による社会的自立を目的とした職業教育が行われています。専門実習として紙工課、縫工課、革工課、木工課、グリーンサービス課、メンテナンス課、ロジスティクス課、オフィスサービス課があり、それぞれの教室を見学し、どのような実習が行われているのか説明を受けました。文化祭である「こうよう祭」では、生徒たちが作った紙工、縫工、革工、木工の製品をバザーで販売するそうです。